

さぬき市まちづくり条例案検討委員会（第1回）会議録

- 1 日 時 平成15年9月17日（水）19時00分～21時50分
- 2 場 所 さぬき市役所3階302会議室
- 3 出席者 委員会委員14名（山崎、近藤、森、谷、真鍋、山下、廣瀬、多田、六車、
頼富、吉田、植村、高橋、堀河）
助役、まちづくり推進課長、事務局2名（白井、鈴木） 計18名
※ 渡辺委員、市長、企画部長は欠席

4 会議の要旨

（1）長谷助役からあいさつ

さぬき市が誕生して1年余りが経過し、各部局では市の行政運営の基本となる各種の計画が策定されようとしています。新しい市では、情報公開と市民参加、つまり行政と市民の協働関係を築くことが非常に重要だと感じます。ここにお集まりいただいた皆様には、市政や身近な地域を見直していただき、その声を反映させた「新生さぬき市」にふさわしい条例案を仕上げていただければと考えております。

（2）長谷助役による委嘱状の交付

（3）委員全員による自己紹介

山崎委員「よいまちづくりについて考え、努力したい。」

近藤委員「PTA、自治会、各種団体は、そのカテゴリーが違うと、つながりがなく、交流することもない。この点を改善でき、地域のつながりをつくり出す内容を盛り込んだ条例にしたい。」

森 委員「さぬき市も少子高齢化しているなかで、高齢者への対策は見られるが、少子化への対策は遅れているように感じる。少子化に歯止めをかけられるような条例だとよい。」

谷 委員「それぞれ特色がある旧5町をひとつにまとめ、にぎわいやつながりを創出するような条例にしたい。」

真鍋委員「今日からいろいろと勉強し、ふさわしい条例案になるよう、微力ながらがんばりたい。」

山下委員「一人一人が住みやすい町になるよう、多方面から考えていきたい。」

廣瀬委員「青年の代表として、子供を産み育てやすいまちになればいいと思う。」

多田委員「このまちに住んで良かった、と思えるような条例案にしたい。」

六車委員「条例案を検討するにあたって、幼い子を持つ親として意見を言いたい。」

頼富委員「健康づくりの活動をしているので、さぬき市が、健康で長生きでき、住みよいまちになればいいと思う。」

吉田委員「地域福祉推進のために努力したい。」

植村委員「市として、もっと子供の教育に力を入れて欲しいので、条例案にも教育について盛り込みたい。」

高橋委員「在学中の大学院での研究課題が「さぬき市」なので、この委員会を自分の研究に生かしつつ、今後のさぬき市の発展のために寄与したい。」

堀河委員「合併後から旧5町の女性で集まって活動をしている。これからのさぬき市が前向きに発展していくために、何かをしたい。」

(4) 委員長及び副委員長の選出

谷委員から森委員を委員長に推薦する発言があり、委員一同が拍手で同意したので、選出された。

また、同じく谷委員から副委員長は女性から選出した方がよいと提案があり、頼富委員が山下委員を推薦。委員一同拍手で同意したので、選出された。

(5) 会議の公開について

会議の公開について、事務局案に意義はなく、原案のとおり決定した。

(6) 条例案の基本方針について

事務局からの説明（別紙）

(7) 先進事例の検証について

事務局からの説明（別紙）

(8) 意見交換

委員◇ 市で同時に策定している他の条例と整合性を採らないといけないから、難しい。

事務局◇ 同時に策定作業を進めている条例や計画はたくさんあるが、当委員会としては、総合計画の動向を視野に入れて検討を進めれば、必要かつ十分だと思う。

事務局長◇ 市長が公約などで市政への市民の参画や情報公開をすると約束しています。この委員会に公募委員や推薦委員としてみなさんにお集まりいただいたのも、そうした市長の公約実行の一つです。ただし、市政への市民参画と言っても、住民投票制度は好ましくないと言っています。これは、市民の直接選挙で選ばれた市長や市議会議員が存在するからです。しかし、ここにお集まりの委員のみなさんが、住民投票制度が必要だと思えば、それを「まちづくり条例案」に盛り込むことを市長へ提案することは可能です。さぬき市の理想を確認する意味で理念条例でもよいが、ある程度、具体的に実効性のある内容を持った実定条例になればと思います。

委員長◇ 委員の具体的な意見を、実際の条例に入れたい。しかし、この委員会で検討した条例案が、市長から議会へ提出されて審議され、その内容に手を加えられたのでは、この委員会自体の意味がない。ここに来ている委員たちは、それぞれ所属する団体や世代の代表として選ばれているし、市民に直結している人たちなので、この委員会が「まちづくり条例」に関しては最高機関だと考えている。

事務局◇ （事前に資料送付してある先進地事例の説明。ニセコ町、宝塚市、高知市。）
それぞれ特色がありますが、どれか一つを参考にして、さぬき市の場合に当てはめ、足したり引いたりすれば、条例案を作りやすいかと思います。

委員長◇ これを読んだところで、今すぐ、どれがよいかは（わからない）。ましてや、どの条文が必要で、どの条文を削除するかなどの意見を言うのは無理。とりあえず、委員のみなさんに3つの先進地事例のうち、どれがいいか聞いてみましょう。

委員◇ ニセコ町の条例が、いいような気がする。

事務局長◇ 先進地事例の条例を事前に読んできていたとしても、内容が難しいし、分量は多いし、比較検討までは無理でしょう。今日の委員会では、委員さんに「これだけは条例に入れたい。」という率直な意見を言ってもらい、その意見について事務局が、こうすれば可能であるなどの助言をしましょう。

事務局◇ 先進地事例に対する感想でも、なんでもかまいませんので、ご意見をどうぞ。

委員◇ ニセコ町の条例がよいと思うが、さぬき市は海と山の両方を持ち、ニセコ町とは土地条件が違う。条例でも、地域を無くしてしまうのか、それとも地域のことも考慮しながら作っていくのか、そういう基本的なことが必要なのではないか。四国88か所の街道沿いなどの観光資源がある地域は、道路ができたりして栄えているようだが、その他の地域は過疎化が進み、寂れていく一方のように思う。そういう地域性を考慮して（条例を）作る必要がある。

事務局◇ さぬき市の特色を出したり、実情を考えたりすれば、合併した5つの町の地域性を視野に入れた条例づくりが良いと思います。なおかつ、それぞれの町に合併前から存在している、自治会・趣味・ボランティアなどのコミュニティ同士の分野を超えた連携・交流・接点を創り出すような内容を条例に入れられれば、かなり特色の出た条例になると思います。

委員◇ 策定フローを見ると、急いで案を作らないといけませんが、他の条例や計画との整合性を考える時間などが無いのではないかと。

事務局長◇ 早く条例ができるのに越したことはないが、策定フローのとおり急いで作る必要はなく、この委員会で十分に案を検討して、時間をかけて良い条例を作ってください。

委員◇ 条例の一字一句まで、委員で考えるのですか？

事務局◇ 条例の決まったスタイルというのがありますので、それに沿って、次回の委員会までに事務局案を作ります。ただし、その事務局案に盛り込む項目については、まだ何も決まっていません。情報共有のことであるとか、コミュニティのことであるとか、住民投票のことであるとかの、委員のみなさんが条例で規定したい具体的な項目について、今ここで意見を伺いたいと思います。

委員◇ まず、理念条例にするのか、実定条例にするのか。私たちが話し合っても、アウトすぎて、理念条例にしかならないのでは。

委員◇ 今日のところは、私たち委員の意見を好きなだけ言って、それを元に、事務局案をまとめてもらえばよいと思う。

事務局長◇ 先進地事例を3つ示しましたが、これらの既存の条例にこだわることはありませんので、さぬき市のまちづくりに何が必要なのか、一人一言ずつでも意見を言っただいて、それらを条例案に盛り込めたらいいなと思います。委員のみなさんの意見を条例の形にする作業は事務局側で行います。

委員◇ 前文に「世代を超えてみんな仲良く助け合う」という文を入れて欲しい。

委員◇ 幼年から老年まで、各世代が関係するような内容がよい。

委員◇ ひとつ、特徴あることを入れたい。毎年、テアトロンでコンサートをするスターダストレビューに名誉市民になってもらうなど。

委員◇ 先進事例を読んでみたが、各条文の差はわかりにくく、前文にまちの魅力や個性が表れていると思う。私は宝塚市の条例がいいと思う。

委員◇ 市民と行政のパートナーシップと、各地の史跡を大切にすることを入れて欲しい。

委員◇ 先進地事例のうち、高知市の条例には市民参加の項目が入っているのがよいと思った。合併前の寒川町では、町長と市民が気軽に言葉を交わすことができ、つながりが強いのがよかった。市民の細かい声が行政に届くような条例がよい。

委員◇ 条例の項目ではなく、市への具体的な要望しか浮かんでこない。まず、最近、市がしている事業は、住民にその内容がわからないものばかり。事業の期間や状況を、広報などで細かく知らせて欲しい。また、旧5町でそれぞれに祭りをしているが、市としての祭りは1つにして欲しい。そうすれば、費用も少なくて済み、財政負担が軽くなる。最後に、体育館などの子どものための施設を充実して欲しい。自動車が入ってこない生活道も整備されれば、子どもが安心して遊べる。

委員◇ さぬき市民の人生で、地域に根ざした生活をしているのは、中学生まで。その年齢までに、さぬき市でよい思いをしていないと、若者たちは地元に戻ってはくれない。高松の高校や県外の大学に進学した若者たちが戻ってくるまちになって欲しい。また、図書館ではなく、市の情報がすべて手に入れられる情報センター施設が必要である。

委員◇ なにごとも、関心を持たないと、市民は参加してくれないと思う。だから情報公開は必要。私は文化団体の交流を促進し、地域差をなくすよう活動している。できるところから統一して、市として一本化できればと思う。

委員◇ 「市民にやさしい」を柱にした条例がよい。市内には、高齢者が集まる場所は多いが、若者が集まる場がないので、作って欲しい。行政にしてもらうという考えをやめて、市民が自主的に何かを立ち上げて市政に参画・実行するまちになればよい。また、「さぬき市と言え、あれだ！」というイベントをして欲しい。平賀源内や弘法大師などの、さぬき市と関係があり、かつ、全国で著名な歴史上の人物を活用してはどうか。

委員◇ 地域の特性を大切に考えながら、全体としてまとめられればよいと思う。

委員◇ なんでもかんでも行政に頼らずに、自治会でできることはすればよいと思う。また、「ポイ捨ては罰金」など、具体的な罰則条例を作って欲しい。

委員◇ 子どもを大切にすることで、外の世界に出た子どもが帰って来たくなるまちななればよいと思う。また、地域という、小さな単位の積み重ねがピラミッドのように積み重なって市になっているので、地域も大切にしたい。

事務局長◇ ありがとうございます。予定の時間も大幅に過ぎました。みなさんのご意見について、これから議論をするというのは時間がかかりすぎますので、こちらで少しまとめます。

まず、「市民が幸せに」ということですが、さぬき市の条例にも、高らかに市の理想を掲げた前文を入れようと思います。内容については、今後みなさまに検討していただきたいと思います。次に、住民投票などの市民参画についてですが、16歳または18歳から住民投票に参加できる自治体もありますし、さぬき市でも、何らかの形で若い人たちが市政に参加できるような内容を入れたいと思います。また、市民と行政のパートナーシップについてですが、地域にその根を発する団体は、自治会でさえ組織率や機能が低下してきていますので、幼年・若年・成年・老年・男女の、市民のすべての層が行政とのパートナーシップを構築できるような内容の項目を作ることができればと思います。最後に、子供をより良い環境で育てるといった内容や、教育に関する内容は、ぜひ条文に入れたいと思います。

委員長◇ 委員会を終了するに当たって、何かありませんか。

委員◇ 委員会を昼間に開いて欲しい。また、案内は早めください。

委員◇ 昼間に勤めている人は、平日の昼間は出席できない。開始時間を早めては？

委員◇ 週に何回か勤めている関係で、19時からの開催のほうが都合がよい。

委員◇ 委員会を3回開くとしたら、そのうち1回は昼間にしたい。高齢なので、夜の委員会は眠たい。

委員長◇ 次回以降の委員会開催時間については、今みなさんから出た意見を元にして、事務局と相談して決めます。

それでは、委員会を閉会します。

「以上」